

令和2年度第1回成田市保健福祉審議会子ども・子育て支援部会  
会議結果概要

1 開催日時

令和2年10月9日（金）10：00～11：10

2 開催場所

成田市役所 議会棟3階 執行部控室

3 出席者

（委員）

青木部会長、中村委員、高木委員、高橋委員、根本委員、荒木委員、  
倉澤委員、植田委員、岸本委員、古川委員

（事務局）

健康こども部：田中部長

子育て支援課：篠塚課長、飯田課長補佐、高仲主幹、在田主任主事

保育課：小林課長、久保木係長

健康増進課：門井課長、谷下田主幹

社会福祉課：多田課長

4 議題

- （1）家庭的保育事業の認可について
- （2）利用定員の変更について
- （3）子ども・子育て支援に関する現状と取組について

5 配布資料

- ・成田市保健福祉審議会子ども・子育て支援部会について
- ・資料1 家庭的保育事業の認可について
- ・資料2 利用定員の変更について
- ・資料3 子ども・子育て支援に関する現状と取組について

6 議事

○議題（1）家庭的保育事業の認可について

（「資料1 家庭的保育事業の認可について」に基づき事務局から説明。主な質疑応答は、以下のとおり。）

委員：家庭的保育事業所については、連携施設の設定が必要であったと思う

が、どのような予定となっているか。

事務局：これまで成田市の地域型保育事業所の連携施設については、主に公立保育園が役割を担っているが、本件についても公立の吾妻保育園と連携する予定である。

## ○議題（２）利用定員の変更について

（「資料２ 利用定員の設定について」に基づき事務局から説明。主な質疑応答は、以下のとおり。）

委員：成田市は待機児童がいると思うが、月かげ保育園の利用定員を60人から40人へ変更することの影響について、どのように考えているか。

事務局：月かげ保育園は、昨年度末時点の利用人数も40名ほどであり、現在の利用定員と比較して少ない状態となっており、状況に合わせて利用定員の変更を行いたいと考えている。施設の定員には認可定員と利用定員があり、認可定員はその施設の最大で受け入れることのできる人数であり、利用定員は実際に運営するうえでの受け入れる人数となっている。今後、保育需要が変化した場合には、改めて利用定員を変更する手続きを行いたいと考えている。

部会長：利用定員の変更は保育園にメリットがあるか。

事務局：子ども・子育て支援新制度においては、お預かりしているお子様の人数に応じて公定価格の支払いがあるが、利用定員が多い方が1人当たりの単価が下がる傾向があるため、利用定員60人から40人へ変更すると1人当たりの単価が上がることとなる。この利用定員の設定を適正に行っていない場合には、単価が低い状態で少ないお子様を預かることとなり、保育園の運営面で負担が生じる。適正な利用定員を設定し、運営に必要な経費を賄うことが必要となってくると考えている。保育施設から利用定員の変更の申し出があった場合には、過去の利用実績等を勘案し、変更している。

### ○議題（３）子ども・子育て支援に関する現状と取組について

（「資料３ 子ども・子育て支援に関する現状と取組について」に基づき事務局から説明。主な質疑応答は、以下のとおり。）

部会長：待機児童数と入所待ち児童数の違いはどのようなものか。

事務局：入所待ち児童数は、保育園に入ることのできない児童の合計数である。待機児童数は、入所待ち児童数の内、保育園はどこでも構わないが保育園に入れられない児童の数である。

委員：低年齢の子どもを預ける方が増加しているとの話があったが、私自身も１歳児は入りにくいと聞いて、１０月生まれの子を、０歳児の４月に預けたという経験がある。母親としてはもう少し一緒にいたかったという思いとともに、保育士としても０歳児は相対的に対応が大変だと思う。１歳までは家庭で世話をすることとして、１歳児、２歳児の枠を拡大し、１歳児になったらいつでも預けられる環境であれば、仕事との兼ね合いも上手くできると思う。０歳で預けるよりも保護者と保育園双方にとってプラスになると思うため、０歳児の枠を縮小して、１歳児の枠を増やす方向が良いと感じる。

委員：令和２年４月の入所待ちが８５名、待機児童が３５名であるが、保育園の入所を待っている児童は８５人という認識で間違いはないか。

事務局：その通りである。

委員：待機児童と入所待ち児童の違いを改めてご説明いただきたい。

事務局：入所待ち児童は、特定の保育園を希望しているか否かにかかわらず、保育園に入ることができない児童である。待機児童は国の定義となるが、どこの保育園でもよいという方で保育園に入ることができない児童であり、保護者が育児休業を取得できない場合や保護者が求職活動中である等の条件を満たした児童が待機児童となる。入所待ち児童が実際に入園を待っている児童の総数である。

委員：令和２年４月に４つの施設が新設されているが、待機児童数が３５名いるのはどういった理由からか。

事務局：3歳児から5歳児については、各施設の定員に空きがあるが、0歳児から2歳児は定員に対して希望する方が多く、空きがないため、待機児童が発生している。

委員：待機児童がいるのであれば、議題2の月かげ保育園は利用定員を減らさず、待機になっている子が行けば良いと考えるがどうか。

事務局：利用定員が多い状態だと公定価格のお子様1人当たりの単価が安価であり、月かげ保育園は私立であることから、園の経営に対する考え方による部分もある。

委員：3歳児から5歳児については、各施設の定員に空きがある状態であれば、3歳児から5歳児の定員を少なくして、1、2歳児の定員を増やすように園に努力をしていただくことや、要請をすることはできないか。

事務局：公立は市に裁量があるため、保育需要を見越した検討をする必要があると考えている。0、1、2歳児が3、4、5歳児になるときに、必ずしもその園に通い続けるわけではないが、0、1、2歳児よりも3、4、5歳児の定員が少ないと次の年齢のクラスに上がれなくなってしまう可能性もあるため、中期的な視点で取り組んでいきたい。私立は市と協議する部分もあるが、各園の考え方もあるため、今後はそういった観点も踏まえながら協議していきたい。

部会長：宿泊型産後ケア事業は1箇所が始まっているということか。

事務局：本年4月から、宿泊型を開始した。今年は新型コロナウイルスの関係で、当初予定していた市外の産科に受け入れをしていただけない状況となっているが、継続して調整していく。利用を希望されていた方が1人いたが、その方については訪問型産後ケア事業として、助産師が訪問して対応している。

部会長：訪問型産後ケア事業を実施していることは把握していたが、宿泊型が始まったことはすごく良いと思った。今後に期待したい。

事務局：宿泊型産後ケア事業については、成田市内の産科医ではないが、市外の産科医2件と契約を完了している。当初は2件の産科を利用できる体制を整えていたが、新型コロナウイルスの影響で、通常の出産であっても配偶者の面会や出産への立ち合いをお断りする状況が通常の扱いとなっている。様々な産科医院様が苦慮されたうえで、受け入れをしていただけなかったという状況である。新型コロナウイルスの状況が変わり次第、引き続き産後ケアについては取り組んでまいりたいと考えている。

委員：来年度には、さらに新しい施設が誕生するという一方で、事業者が社会福祉に携わり、活躍されるのはありがたいことだと考えているが、一方で3、4、5歳児の受け皿は整っているが、0、1、2歳児の定員が不足しているからということで新設すると、3、4、5歳児の枠の余りが増える状況になってしまう。新たな保育施設ができることは、いいことであるが、事業者が共倒れ状態となっていく懸念があるが、どうか。

事務局：待機が多い地域としては、公津地区、遠山地区、成田地区、NT地区の4地区であり、民間の事業主は営利を目的としている部分もあるので、そういった地区を念頭において窓口にて相談に来る。保育課では、参入したい事業主のお考えを聞いて、市の考えや0から2歳児の待機児童が多い等の状況をお話している。認可保育園の認可権限は千葉県にあり、市としては助言や市の実情をお伝えすることとなる。

事務局：平成27年度から子ども・子育て支援新制度がはじまり、全国の自治体は5年を計画期間として、子ども・子育て支援事業計画を定めることが義務付けられており、市町村で行う施設の整備についても事業計画の中でニーズ調査等を実施し、そこから導き出したニーズをベースにして対応していくことが原則となる。ニーズに基づいた計画値と期間が進むことでずれる実績値、待機児童の発生状況等を踏まえて整備を検討する必要があると考えている。第2期計画では待機児童が多く出ている0から2歳児について、対応が必要ということで小規模保育事業の整備を進めていくと計上している。今後についても事業計画に基づいて整備をさせていただき、数字のずれが認められた場合には、5年の事業計画の中間年にあたる3年目に見直しを行い、そちらに沿って整備を進めさせていただければと考えている。

部会長：年に1回程度、成田市内の保育園の状況一覧を資料として提供いただき、どの地区が不足しており、こういった状態であるかを検討し、我々が把握できる機会があると良いと考える。

委員：成田市でも農村部では、都心へ出ていった子どもたちが帰って来ず、そのまま定住している現状であると思う。最近1歳児の子どもがドアにたたきつけられて亡くなってしまったというニュースがあったが、家族で祖父母と一緒に住んでいれば、そういう悲劇は起きなかったかもしれないと思う。0、1歳児のときには保育園に預けるのではなく、祖父母に子育てしてもらえば、両親は助かり、祖父母も孫を育てる喜びがある。これから進める方向として、核家族ではなく、多世代が同居している世帯を良しとし、魅力があるものであるといった動きができないかとニュースを見て感じた。